

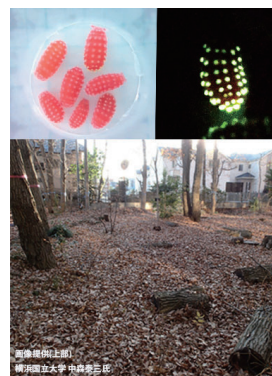
12月5日は世界土壌デー 発光トビムシの正体を解明したドクターによる観察教室開催

多摩六都科学館（東京都西東京市、館長：高柳雄一。以下、当館）では、12月5日の「世界土壌デー」にちなんで、土壌動物の観察教室を開催します。当館の庭から土壌動物を採集し、マイクロサイズの生き物たちを顕微鏡でじっくり観察します。講師は、2023年に長年謎だった光るトビムシの種名を特定した当館学芸員の大平敦子（おおひらあつこ）がつとめ、落ち葉の下に広がる土壌動物たちの生態から生物多様性についてまでを、観察を通して考えます。

【イベント概要】

名称 「発光トビムシや土壌動物を探して観察してみよう！」
開催日 12月7日(土)
時間 午後1時30分～3時
会場 多摩六都科学館（2階 科学学習室）
対象 小学3～6年生とその保護者
定員 12組24人 ※未就学児の入室不可、2人まで同伴可
費用 1組100円
申込 11月25日(月)必着（抽選）

教室の詳細・
イベントページ
はこちら→



上：イボトビムシとその発光した状態
（画像提供：横浜国立大学 中森泰三教授）
下：採集を行う当館の雑木林

■発光するトビムシとは

体長1~3mm程度のトビムシのなかまは世界に9,000種、日本には400種ほどいるといわれ、当館の庭でも見られます。そのうちのイボトビムシは、約300年前の江戸時代に書かれた大和本草という書物に「螢の如く光る」と記載があるものの、どの種を指すのかは長らく謎のままでした。イボトビムシの形態的特徴やDNA解析によって従来の分類を整理・研究した結果、2023年に大平らがその種名を特定しました。またイボトビムシが光る様子の動画撮影にも成功し、発光するトビムシの研究は世界的に注目を集めています。

■300年の謎を突き止めた当館学芸員による教室

当館の学芸員・大平敦子は、科学館の観察教室や展示の企画・運営と並行し、大学院でイボトビムシの分類学的研究に取り組んできました。発光トビムシの種名を特定した論文の発表後も、科学館の庭から離島まで様々な場所の発光トビムシの調査を行っています。その大平による企画が11月10日まで実施する「しぜんラボ：テーマ 土壌動物」と、12月に開催する本教室です。どちらも実際にイボトビムシの姿を見ることができます。



誰でも参加できる「しぜんラボ」での観察の様子
（写真左は大平本人）

担当者よりひとこと

「現地で実物を見る」ことを大切にしています。私たちの身近な場所にも、生態系の一部が存在していることを伝えていきたいです。（学芸員 大平敦子）



10月1日に刊行した「発光生物のはなし」には、共同で研究・発表した中森泰三教授（横浜国立大学）らとともに執筆したコラムが載っています。（大場裕一 教授 編集／朝倉書店）

お問い合わせ先

多摩六都科学館 広報担当（廣田・蓮田）まで
〒188-0014 東京都西東京市芝久保町5-10-64
TEL 042-469-6100（代表） 042-469-6984（広報直通）
Mail info2@tamarokuto.or.jp



多摩六都科学館 WEB